

自動郵便切手葉書売下機



自動郵便切手葉書売下機は、明治37年に制作された切手とはがきの自動販売機で、現存する日本最古の自動販売機とされています。

この機械は、投入されたコインの作用だけで作動するという江戸時代からのからくりの技術で作られており、動力は全く使われていません。向かって右側が3銭切手、左側が1銭5厘はがきの発売口で、在庫がなくなると「うりきれ」と表示されます。下半分は郵便ポストになっており、つり銭口の下に差入口が付いています。

この機械を考案したのは、山口県赤間関（現在の下関市）の俵屋高七という発明家です。彼は明治23年に「煙草やその他の物品の自動販売機」の特許を取得しており、日本最初の鉄製赤色ポスト（俵屋式ポスト）の考案者でもありました。